使える英語プロジェクト NEWS

（第 21 号）

英語の授業や学習への意欲が向上

使える英語プロジェクト事業では、実践研究校の取組み及び事業効果を検証するため年度末に質問紙調査を実施しております。

○ 対象学校： 使える英語プロジェクト事業実践研究校（33 市町村の 50 中学校区 101 小学校）
○ 対象学年： 小５～６年、中１～３年生
○ 調査期間： 平成２６年２月４日～２月２８日
○ 調査内容： 外国語活動や英語の授業における学習状況（意欲・態度・習慣等）について

［調査結果の概要］（中３）

◆ 全２４問中、英語に関する「関心、意欲、態度」についての１９設問で肯定的な回答の割合が向上。特に１１設問においては、５ポイント以上向上した（表１参照）。
◆ 英語が「コミュニケーションのために役立つ」から必要と考える生徒の割合が増えた（表２参照）。

表１

肯定的な回答が５ポイント以上向上した設問

質問項目（抜粋）	平成24年度（中2）	平成25年度（中3）	ポイント
(1)外国に興味がある。	73.1%	79.1%	+6.0
(2)英語は好きだ。	53.7%	59.0%	+5.3
(3)英語の授業は好きだ。	54.8%	60.8%	+6.0
(4)英語で表現できることが、増えるのは楽しみだ。	61.4%	71.0%	+9.6
(5)将来、外国で、自分の好きな事や仕事をしたい。	38.9%	46.9%	+8.0
(6)外国の人と英語を使って、コミュニケーションができるようになりたい。	70.4%	76.6%	+6.2
(13)英語の授業で英語を話すときは，わかりやすく話すことを心がけている。	58.7%	64.9%	+6.2
(14)英語の授業中に，外国人指導助手や英語教育支援員の先生とするコミュニケーションは楽しい。	63.3%	70.8%	+7.5
(19)英語の授業中に，外国人指導助手や英語教育支援員の先生が使う英語の意味はわかる。	53.1%	59.3%	+6.2
(20)英語の授業中に，先生や友だちに英語を使って自分の考えを伝えることができる。	43.1%	50.1%	+7.0
(21)学校以外の場所でも，外国の人に自分の考えや意見を英語で伝えることができると思う。	30.7%	39.7%	+9.0

平成 24 年度 中２（6,775 人）→平成 25 年度 中３（6,431 人）

表２

英語が必要だと考える理由の変化（中３）

設問
（８）英語を使えるようになることは，大切だと思う理由を１つ回答してください。
１ 受験するときに，役立つから
２ 好きな事や仕事をするときに，役立つから
３ 外国の人とコミュニケーションをとるときに，役立つから
４ その他

	1	2	3	4
H24	29.4%	33.1%	31.3%	6.3%
H25	19.0%	36.0%	39.0%	6.0%

「受験に役立つ」という回答が減少。

外国の人とコミュニケーションをとるときに役立つ」という回答の増加。

モチベーションとジチュエーション

平成 25 年度 第２回 使える英語フォーラム開催

「使える英語プロジェクト事業」の研究成果を共有し、事業を総括することを目的に、平成２６年３月１３日（木）に、「平成２５年度 第２回 使える英語フォーラム」を開催しました。

当日は、府内市町村の小中学校の管理職、教員、府立高等学校の教員、市町村教育委員会指導主事等、300 名を超える参加をいただきました。

まず、茨木市立太田中学校区（太田中学校、太田小学校）から、児童生徒の「動機」「意欲」を高めるために、小・中学校で一貫して、外国語活動、外国語（英語）の授業における言語活動の「場面」「状況」に工夫を凝らした実践研究について報告していただきました。

小学校からは、「レストランに行こう」をテーマに“What would you like?”を用いた活動例を、中学校からは、「どういう状況で“What time is it now?”を使うのかを考える」活動例が紹介され、子どもたちが楽しく意欲的に参加するようになった様子が分かりました。

このことについては、関西大学 外国語学部 学部長 竹内 理 教授の「使える英語プロジェクト事業　何を一緒に変えていこうとしたのか」と題した指導助言の中でもとり上げていただきました。

「単元の最後にどんな活動を行い、そのために必要な表現は何か」、また「その表現を使うにはどんな場面や状況を設定するのか」を、どの学年でも工夫したこと。また、学習者が不安にならないようにスモールステップで学習が行えるようにしたこと、十分な練習を行い授業の途中で振り返りをすることで、授業の終わりには自信を持って学んだ英語を使えるようにしたことなど、主に学習者の動機付けの観点から、授業を構成する際に役立つポイントを交えてお話いただきました。

最後は大阪府教育委員会から、事業の成果をまとめた『「英語を使うなにわっ子」育成プログラム』の一層の活用とともに、本事業の成果をさらに広めていただきたくようお願いしました。

英語を使ってコミュニケーション

学びングキャンパス@近畿大学英語村 E³（イー・キューブ）開催

３月２８日（金）・３１日（月）の２日間、小学校５・６年生の児童と府内小中学校教員を対象に「学びングキャンパス@近畿大学英語村Ｅ³（イー・キューブ）」を開催しました。

１日目は、児童を対象に、ゲームや歌で英語を使う雰囲気づくりから始まり、パズルを解いたり算数ゲームに挑戦する活動を通して英語の表現に慣れ親しみました。また、英語での指示を聞きながら紙飛行機を作り、飛距離を競うなど、「遊びながら英語を学ぶ」という近畿大学英語村のコンセプトに沿った活動を体験しました。

２日目は、教員を対象に、近畿大学英語村で日ごろから行っている英語のアクティビティを模擬体験したり、参加者が授業で行ったアクティビティのプランを持ちより、グループで話し合ったりしました。最後に、体験や話し合いの内容を全体で共有し、次年度の外国語活動や英語の授業に取り入れるためのヒントとして持ち帰りました。

ごあいさつ

平成２３年度から始まりました「使える英語プロジェクト事業」では、「生徒が義務教育終了段階で、自分の考えや意見を英語で正確に伝えることができる」ことを目的として、指導目標、評価計画、授業（「活用の時間」「習得の時間」）計画などをバックワードデザインで考え、授業改善に取り組みました。

「フォーラム」や「ワーキング会議」を通じて理論を、また、実践研究校での授業（公開授業を含む）を通して取組みを、それぞれ共有することで、まさに、理論と実践を両輪とした事業となり、実践研究校の先生同士の地区を越えたつながりも深まりました。

これまでの実践の成果は、「英語能力判定テスト」「質問紙調査」にも明確に現れており、本事業を支えていただいた市町村教育委員会、５０中学校１０１小学校の先生方に、あらためて感謝申し上げます。

今後も、子どもたちが「英語を使うなにわっ子」として世界に羽ばたく人材となるよう、皆さま方と共に取り組んでいきたいと思います。

大阪府教育委員会小中学校課